

広報

2017

つちうら

4

Tsuchiura Public Relations

No.1192

特集 平成29年度市政の運営方針



快適で安心・安全な「日本一住みやすい」まちづくり

地域資源を生かした活力あるまちづくり

共に考え行動する「協働」によるまちづくり

安心のまち 活力のまち 土浦

市民ニーズや次代の要請に留意しながら、分野横断的な次の4つの戦略プランを掲げ、施策・事業を重点的かつ優先的に推進します。

地域力・市役所力

パワーアップ戦略プラン

地域とそれを支える市役所力を強化したまちづくりを推進します。

らしさが光る

オンリーワン戦略プラン

市民が「わがまち土浦」と自信と誇りを持つことができるオンリーワンの都市づくりを推進します。



特集

平成29年度市政の運営方針

水・みどり・人がきらめく

つちうら戦略プラン

つなぐ・つたわる・つくりだす

安心・安全戦略プラン

「安心・安全」に向けた総合的な施策・事業を推進します。

うるおいと活力が調和する

暮らしの「質」向上戦略プラン

住み慣れた地域でお互いに支えあいながら、うるおいと活力が調和するまちづくりを推進します。



平成29年度 市政の運営方針

水・みどり・人がきらめく 安心のまち 活力のまち 土浦

市長は3月7日から開会された平成29年第1回市議会定例会の冒頭、平成29年度
の市政運営に対する所信を表明しました。

平成18年の新治村との合併により新生土浦市がスタートし、昨年、早くも十年が経過しました。

これまで、新市の均衡ある発展を目指し、半世紀ぶりとなる新庁舎の移転開庁を始め、市営斎場、消防庁舎、水郷プール、土浦小学校や都和小学校、荒川沖地区市民運動広場、小町の館、新治地区公民館、新治運動公園野球場、朝日トンネルなどの整備に、重点的・集中的に取り組み、新しい土浦市の姿が見えてまいりました。

新年度は、新図書館や市民ギャラリーを核とした土浦駅前北地区市街地再開発事業、川口運動公園野球場観覧席および夜間照明整備事業、第六中学校の大規模改造、また、本市初の施設一体型の小中一貫校となる新治学園義務教育

学校の完成のほか、市民会館の耐震化・大規模改造、学校給食センター整備の実施設計に着手するなど、新たな施設整備に道筋をつけ、本市の未来へとつなぐ基幹事業の総仕上げに向けて、全力を傾注し取り組んでまいります。

さて、我が国の経済状況は、アベノミクスの取り組みの下、緩やかな回復基調が続いており、完全失業率の低下や有効求人倍率が1倍を超えるなど、一定の改善はみられるものの、地方においては、景気回復を十分に実感するには至っていないのが現状です。

また、昨年度の国勢調査の結果、我が国の人口は、1億2709万人と、調査開始以来、初めて減少を記録する中、東京への一極集中は依然続いており、大都市と地方都市の間では、生産・消費の

面において、格差を抱えての回復にあります。
このような中、国におきましては、地方創生について、本格的に事業に取り組む段階に入ったとして、昨年、「ニッポン一億総活躍プラン」を策定し、経済成長の隘路となる少子高齢化の問題に真正面から取り組むとともに、三本の矢の経済政策を一層強化するなど、新たな社会経済システムづくりに挑戦するとしております。

本市におきましても、国の動向を踏まえ速やかに策定した「土浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、引き続き、若い世代の就労・結婚・子育てや、地方に住み、働き、豊かな生活を願う人々の希望が実現できるよう、ソフト面から、快適かつ安心・安全な環境整備を進め、出生

数の増加と定住促進など、人口減少の抑制を目指してまいります。
しかしながら、これからのまちづくりは、人口減少を克服することは勿論のこと、一方におきまして、その到来を見据え、これまでの人口増加を前提としたまちづくりの考え方を見直し、人口減少や高齢化の進展に適切に対応したまちを創っていくことが重要となります。そのようなことから、既存施設を最大限に活用した、コンパクトなまちづくりを進め、都市の活力に満ち、市民の皆さまがいつまで

も幸せに暮らせるまちの実現に向け、長期的な展望に立ち取り組んでまいります。

新年度は、これまで推進してまいりました、第7次土浦市総合計画の総仕上げとなる節目の年です。

その将来像である「水・みどり・人がきらめく安心のまち 活力のまち 土浦」の実現に向け、計画に位置付けた、分野横断の四つの「つちうら戦略プラン」に基づき、重点的かつ優先的な施策・事業の展開を図ります。



つ つなが・つたわる・つくりだす 安心・安全戦略プラン

本市では、これまで災害時の拠点となる新庁舎や新消防庁舎など、ハード面から重点的な整備を実施してまいりました。また、昨年の熊本地震や北海道・東北地方を襲った台風など、頻発する自然災害を目の当たりにし、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という意識の重要性を改めて感じました。新年度も引き続き、防災無線の整備を進め、市内全域のデジタル化を完成させるとともに、防災井戸を設置する町内会を支援するなど、市民と一体となった防災・減災対策を推進します。

また、雨水排水路の整備や避難路・緊急輸送路に指定する橋梁の耐震化を計画的に進め、自然災害に強いまちづくりを推進します。

高齢化の進行により生活習慣病が増加する中、誰もが健康で生き生きと安心して暮らすことができる、医療体制の充実が求められています。

真鍋地区に診療所を開院した土浦協同病院や霞ヶ浦医療センターへ支援を行うことで、更なる地域医療の充実を図ります。



ち 地域力・市役所力 パワーアップ戦略プラン

持続可能な行政運営に向けて、引き続き、第5次行財政改革大綱に基づき、効率的な組織・機構を構築するとともに、全庁を挙げて行財政改革を推進します。

人口減少などによる、公共施設などの利用需要の変化を踏まえ、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うため、本年度、公共施設等総合管理計画を策定しました。

新年度は、本計画に基づき適正管理を推進し、最適な配置の実現に取り組みます。



う うるおいと活力が調和する 暮らしの「質」向上戦略プラン

人口の減少と高齢化を背景として、高齢者や子育て世代にとって、安心できる健康で快適な生活環境の実現を目指し、公共交通ネットワークとの連携を図りながら、居住や医療・福祉、商業などの都市の生活を支える機能の立地誘導によりコンパクトなまちづくりを推進します。

中心市街地につきましては、昨年末、供用を開始した屋根付きペデストリアンデッキに続き、11月に駅北再開発事業が完成し、図書館と本市初の本格的ギャラリーの供用を開始します。北の拠点である神立駅周辺につきましては、引き続き、土地区画整理事業にあわせ、橋上駅舎および東西自由通路などの整備を進めます。

本市発展の基盤となる道路ネットワークにつきましては、3月、供用開始となった国道6号土浦バイパスの4車線化に続き、広域幹線道路の早期整備に向け、国・県へ強く要望活動を継続するとともに、新消防庁舎や土浦協同病院へのネットワーク機能の強化を図ります。



ら らしさが光る オンリーワン戦略プラン

「つくば霞ヶ浦りんりんロード」につきましては、J R、県と連携した、土浦駅ビルへのサイクルステーションの整備とあわせ、土浦港周辺に、新たなサイクリング施設の整備を進めるなど、本市の拠点機能の更なる強化を図り、総延長180キロメートルとなる日本一のサイクリング環境づくりを進めます。日本ジオパーク認定を受けた霞ヶ浦を一体とする筑波山地域につきましては、地域資源を有効活用しながら、地域活性化を図ります。

今後、県内外で開催されます、世界湖沼会議、茨城国体、東京オリンピックなどを好機と捉え、シティプロモーションによる情報発信を行うことで、本市固有の地域資源を際立たせ、交流人口や定住人口の増加につなげます。

また、普通自動車などのナンバープレートに、地域の特性を活かした図柄を入れられるようになったことから、広域的な地域振興や観光振興につなげるため、平成30年度の図柄入り土浦ナンバーの導入に向けて、管内市町村と協議を進めてまいります。茨城国体で軟式野球会場となる、川口運動公園野球場につきましては、7月に観覧席やナイター照明設備の整備が完成し供用を開始します。

